

JACET-Kansai Newsletter

No. 34 August 10, 2006

Chapter President: 木村博是 (Hiroshi Kimura, Kinki University)

JACET-Kansai Office: 〒522-8533 彦根市八坂町 2500 滋賀県立大学 小栗裕子研究室

(Yuko Oguri, The University of Shiga Prefecture, 2500 Hassaka-cho, Hikone-city 522-8533)

Tel: 0749-28-8252 Fax: 0749-28-8619 E-mail: yoguri@ice.usp.ac.jp URL: <http://www.jacet-kansai.org/>

Postal Account : 00940-4-187715 大学英語教育学会関西支部 (Daigaku Eigo Kyoiku Gakkai Kansai Shibu)

IELTS とイギリス英語

支部長 木村博是

大会テーマはその年の英語教育の指標です。関西地区での JACET 全国大会は、1996 年に大谷大学で「異文化交流と英語教育」というテーマで開催されて以来、10 年ぶりに 9 月 8 日～10 日の 3 日間、関西外国語大学・中宮キャンパスで開催されます。大会テーマは「授業学 - 大学全入時代の大学英語教師 - 」です。大学全入時代を迎え、授業のあり方が問われています。多様化した学生の実体に対応して教育内容を吟味し、指導技術を高め授業の向上を図らなければなりません。ぜひ大会に参加して、授業改善につながる糸口を見出していただけたいと思います。

さて、ご存知のように今年の 5 月から新しい TOEIC[®] テストが実施されています。新 TOEIC テストの特徴の一つは、アメリカ英語の発音だけでなく、イギリス、カナダ、オーストラリア (ニュージーランドを含む) の発音を 25% ずつ採用したことです。昨年このことが TOEIC 運営委員会から発表されたとき、「アメリカ英語だけの方が、混乱が少ないのではないか」という意見がありました。たしかにアメリカ英語とイギリス英語の間には、advertisement のようにスペリングが同じでも発音が違ったり、elevator と lift のように同一物を指すのに語彙が異なったり、また「アメリカ人とイギリス人が the second floor で会う約束をして会えなかった」と、表現の違い (アメリカでは 2 階、イギリスでは 3 階) をネタにしたジョークもよく聞きます。しかしイギリス英語は、そんなにアメリカ英語と違うのでしょうか。

IELTS (アイエルツ) というテストがあります。イギリス、オーストラリア、ニュージーランドなどのイギリス英語圏に留学・移住する人を対象に、ブリテッシュ・カウンシルが実施しているテストで、Academic Module (留学目的の人を対象) と General Training Module (移住目的の人を対象) の 2 種類があります。コンピューターではなくペーパー・テストであることに加え、2 日間にわたり英語の 4 技能が試されるという点で、アメリカの ETS が作成している TOEFL とは大きく異なります。

す。では、アメリカ英語を学んできた日本人にとって、イギリス英語の IELTS は不利なテストなのでしょうか。

IELTS のライティングでは、データを分析して英語で説明する問題と、与えられたテーマについてエッセイを書く問題が出されます。イギリス英語で書くことが望ましいのですが、アメリカ英語のスペリングや表現を使用しても減点はされません。スピーキングも同じで、試験官はイギリス人ですが、アメリカ発音で話しても減点はされません。リスニングは日常会話からレクチャーまで様々な問題が出され、イギリス発音ですがアメリカ発音を学んだ人でも、ほとんど戸惑うことはありません。リーディングはイギリスだけでなく世界中のことが題材になります。たとえば「中国と日本の五重塔の違い」、「アメリカのリサイクル事情」、「サケの体長の地域差」のような文系・理系的な内容で多岐にわたります。つまり IELTS はイギリス英語であるとはいえ、英語力がしっかり身につけていれば、ハイスコアが取れるテストなのです。

しかし、幸いなことに今日、日本では様々な国から来たネイティブ教員が教えています。地域差も含めたグローバルな英語という観点から見ると、学生がアメリカだけでなく、イギリス英語圏から来たネイティブ教員と接する機会が増えるのは良いことです。

英語にはたしかに地域差が存在しますが、相違点よりも共通点の方がはるかに多いのです。日本人教員は、「アメリカ英語を学んできたからイギリス英語も容易に理解できる」という視点で学生を指導することが良いのではないのでしょうか。

授業ではアメリカ英語だけでなく、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの英語や発音の特徴に触れて、その差異を楽しんでみてはどうでしょうか。さまざまな英語に慣れ親しみ、そして、その言葉をはぐくんだ民族の心や文化の多様性を学ぶ楽しさを授業に取り入れることも、授業改善の一工夫ではないかと思えます。

『JACET関西紀要』第9号への投稿募集
以下の投稿規程および執筆要領をご参照ください。

『JACET関西紀要』投稿規程（2004.6.5 改訂）

1. 学会紀要の名称

名称は『JACET 関西紀要 (JACET Kansai Journal)』とする。発行号数は『関西支部紀要』(第1号～第6号)から通算することとする。

2. 募集原稿の種類

本紀要原稿は、関西支部会員の投稿原稿による。投稿原稿は「研究論文」、「実践報告」、「研究ノート」の3種類とする。投稿原稿はすべて未発表の内容のものに限る。口頭発表した場合などは、その旨を明記してあれば、査読の対象とする。

3. 投稿資格

投稿原稿は、関西支部会員のものに限る。但し、連名の場合には、筆頭執筆者が関西支部会員であれば、他の連名執筆者はJACET 会員であれば他支部会員でも構わない。

4. 原稿の審査

投稿原稿掲載の可否は、複数の査読委員による審査結果を基に、紀要委員会決定する。査読委員は、大学英語教育学会関西支部会員の中から紀要委員会が選ぶことを原則とする。

5. アブストラクトを支部のホームページに掲載する。

『JACET関西紀要』執筆要項

1. 平成19年(2007)年1月5日(金)(必着)とする。

2. 送付先

〒606-8522

京都市左京区下鴨半木町1-5

京都府立大学文学部 英語学講座

菅山謙正研究室内JACET関西支部紀要委員会宛

問い合わせは ken [AT] kpu.ac.jp

またはfax 075-703-5243

3. 使用言語は、原則として英語または日本語とする。

4. 体裁は、B5判用紙 1枚40字×32行=1280字とする。

詳細は次の通り。上余白 30ミリ 下余白 30ミリ 右余白 15ミリ 左余白 15ミリ とじしろ 10ミリ フォントは10.5ポイントのMS明朝または Times New Roman

5. タイトル、氏名、所属、に続いて、300語程度のAbstractと5語程度のキーワードを書く。

6. 参考文献 (References) の記述の仕方に関しては、*Publication Manual of the American Psychological Association* (APA, 5th ed.) に準じる。(以下省略)

7. 投稿原稿は、タイトルや参考文献、図表などを含めて、刷り上り12頁以内とする。12頁を超える

場合には、1ページにつき超過料金として5,000円を請求する。

8. 投稿の際には、完成原稿(執筆者氏名および所属を記入)1部とコピー3部(査読用)を送付する。ただし、査読用コピー3部には、氏名および所属は記入しないこと。封筒にはJACET関西紀要論文投稿と朱書する。また、ken [AT] kpu.ac.jp に、査読用の論文ファイル (PDF or MSword) を送信する。

9. 投稿された原稿は原則として返却しない。

10. 投稿原稿の採用が決定した場合、後日改めて camera readyのB5判サイズの原稿を提出すること。

なお、『JACET関西紀要』の書式テンプレートは、<http://www.jacet-kansai.org/kiyou.html>をご覧ください。

* 講演会のお知らせ *

日時：2006年10月28日(土)15時30分-17時

場所：「ぱ・る・るプラザ京都」6階会議室6

講師：山田雄一郎氏(広島修道大学教授)

演題：英語力をどう育てるか-学校教育の守備範囲

講演会後、「がんこ 京都駅ビル店」にて山田先生ご参加の懇親会を予定しています。講演会の詳細及び懇親会の予約につきましては、同封の「講演会開催のお知らせ」をご参照ください。

* 第2回談話会のお知らせ *

日時：2006年12月9日(土)15時30分-17時

場所：大阪産業大学梅田サテライト

(梅田第3ビル19階)

講師：Terry O'Brien氏(大阪大谷大学教授)

内容等の詳細は、10月発行の次号ニューズレターにてお知らせいたします。

* 2007年度春季大会のお知らせ *

2007年度春季大会は、6月2日(土)に関西学院大学(西宮上ヶ原キャンパス)にて開催予定です。発表の応募については、次号に掲載いたします。

お詫び

前号33号ニューズレターの支部研究会についての「教材開発研究会」連絡先メールアドレスが間違っていました。関係者各位には大変ご迷惑をおかけいたしました。ここにお詫びと訂正をさせていただきます。

教材開発研究会

代表：持留浩二

連絡先：hgaeru [AT] yahoo.co.jp (仲川浩世)